

苗木生産に関する研修会への活動支援

<概 要>

近年の皆伐の増加とそれに伴う再生林の増加により、苗木不足が長期化すること懸念し、八代管内の林研グループが主体となり、苗木生産に関する研修会を開催しました。

管内での苗木生産量拡大に向けた取り組みとして、8月の座学（①苗木の生産技術、②水源林研の苗木生産の取り組み）、10月の視察研修（①坂本樹苗圃、②林木育種センター）に続き、12月13日に現地研修（穂採り&挿し穂体験）を開催し、研修会には林業関係者（林研・普及協会員、苗木生産者、森林組合、認定事業体、林建連携関係建設業者、八代市、県南広域本部林務課）22名が参加しました。

12月の現地研修では、八代市内の山林で地元の苗木生産者が指導の中心になり、視察研修先での穂採りに関する情報を参考に意見交換しながら、穂採りと挿し穂の実習を行いました。

参加者からは「思った以上に参加者が多く、熱心さが感じられた。」「建設業者（林建連携）の参加もあり、新たな動きがありそうだ。」といった声があり、参加者自身も手応えを感じた様でした。まだまだ関係者への働きかけや生産体制づくり等取り組むべきことは多いですが、関係者のやる気を活動する力として、引き続き支援していきます。



林木育種センター視察の様子



穂採りの指導の様子